

## 高知県立岡豊高等学校創立40周年記念事業実行委員会の設立について

本校は昭和64年(平成元年)にピークとなる高知学区の生徒数の増加と多様化の進む新時代への要請に応えることを期し、土佐まほろばの地に広大な校地と近代的な施設設備を擁して、県内最大規模の県立学校として昭和59年4月に開校しました。

当時の中村哲男 県教育長は、「歴史的に由緒深いここ岡豊の地に、生徒一人一人を大切に、能力を最大限にのばして、知・徳・体の調和の取れた、人間性豊かなたくましい人づくりを目標として、大きな期待と希望に燃え、ここに高知県立岡豊高等学校の開校を宣言します。」と宣言をされました。

初代校長 野口顕二先生が、開校記念誌で、「教職員・生徒・保護者が一致協力し、気力と努力を結集して本校の教育方針である『友人の人格と能力を敬愛しつつ、同時に自らを高めるため努力する学力・人柄・健康の三拍子そろった、たくましい人間を育成する』にふさわしい伝統の礎がつけられつつある。」と述べられています。

10周年では、第二代校長 小松信臣先生が、10周年記念誌「明日にはばたけ」で『学力・人柄・健康』を校是に、『生徒一人ひとりを大切に、能力を最大限に伸ばして知・徳・体の調和の取れた人間性豊かなたくましい人づくりを目指す』ことを教育理念として、全校が一丸となって取り組んで参りました実践課程こそ、新しい輝かしい伝統である。」と述べられ本校の伝統が出来上がりつつあることを示されています。

20周年では、第三代校長 武市壽雄先生が、20周年記念誌「まほろば」で、『生徒一人ひとりを大切に、能力を最大限に伸ばして、知・徳・体の調和の取れた人間性豊かなたくましい人づくり』を目指し、徹底した学習指導、厳しい中にも温かみのある生徒指導、充実した特別活動、適切な進路指導の四つを指導の柱として、友人の人格と能力を敬愛しつつ、同時に自らを高めるため努力する『学力・人柄・健康』の三拍子そろった、たくましい人間を育成してまいりました。」と述べられ、学校の伝統が確立されたことを宣言されています。

30周年では、第七代校長 片田一義先生が、30周年記念誌「感謝」で「初代校長野口顕二先生が第一期生に言われた『初心忘るべからず』、という言葉をあげ、30周年を経た今、私たちは「初心にかえれ」というべきであり、30年間の歳月は本県の教育事情に少なからぬ変化や変遷をもたらしましたが、教育の本質はそのような短時間では本来変わりえないものでありましょう。」と述べられ、伝統を受け継ぐことを宣言されています。

創立から10年を区切りとする先代校長の言葉を並べることで、創立40周年記念事業の意義は、今までの本校の歴史を振り返り、本校のあるべき姿を再確認し、次の50周年に向けてどのようなメッセージを残していくかの大切な事業であり、ここに、高知県立岡豊高等学校創立40周年記念事業準備委員会を経て、令和5年度の記念事業の企画運営を行うため高知県立岡豊高等学校創立40周年記念事業実行委員会の設立を行うものです。